

REGIONAL ECONOMY

横山機工が水素関連事業



横山機工と子会社の三陽アキュラシーの水素関連事業の勉強会（大阪市福島区）の横山機工本社

子会社・三陽アキュラシーと共同

横山機工（大阪市福島区、横山利治社長）は、子会社の三陽アキュラシー（同）と共同で、脱炭素社会に向け、需要拡大が期待される水素関連事業の検討に入った。両社で勉強会を立ち上げており、水素事業への関わりを探り、三陽アキュラシーのモノづくり力を生かした関連部品の試作など

29～10月1日に東京で開かれる水素・燃料電池の展示会に両社で出展し、まず加工技術のPRを行う。勉強会は「横三水プロジェクト」と称し、国の政策や水素などエネルギー事情に精通する外部コンサルタントを迎え、月1回ペースで始まった。横山機工と三陽アキュラシーから現場責任者ら8人強で構成。水素関連事業の情報収集を

勉強会立ち上げ／展示会で加工技術発信

しつつ、バルブ関連や水素発生装置など想定される部品・装置の試作も随時行っていく方針だ。

機械工具商社の横山機工は2014年にM&A（合併・買収）により三陽アキュラシーを立ち上げ、部品加工業に参入。9台ある工作機械や3次元測定機など設備を充実させ、現在は半導体製造装置やロボット関連などの部品試作・加工でフル操業状態という。

2社を合わせた2021年4月期の売上高は22億5000万円。横山氏は「水素関連事業は加工業の出番があると思うっており、エネルギー分野に本格参入したい」とする。

のある静岡大学浜松キャンパス光創起イノベーション研究拠点棟内にX線を検出するセンサーの製造ラインを立間が短いため被曝リスク、浜松いわた信用金

西日本